

林政 隔週刊 ニュース

RINSEI NEWS

2021 (令和3) 年 2 月 24 日 (水)

第 647 号

隔週水曜日発行

平成6年6月9日第三種郵便物認可



森と木と人のつながりを考える
(株)日本林業調査会

発行所 〒160-0004 東京都新宿区四谷2丁目8番地
岡本ビル405

TEL (03)6457-8381 FAX (03)6457-8382

MAIL info@j-fic.com

取引銀行 三井住友銀行飯田橋支店(普) 810522

郵便振替 00160-8-98120

発行人 辻 潔

年間購読料15,000円(1部800円、消費税別) (禁無断転載)
電子版(PDF、1部800円)も販売しています。

再生紙を使っています。

インターネット・ホームページ <http://www.j-fic.com/>

■ニュース・フラッシュ

- ・森林含め所有者不明対策を強化、相続登記義務化
- ・大量輸送時代に対応へ、路網整備検討会が報告書
- ・木材輸出が過去最高記録、中国・米国向け伸びる
- ・国有林間伐・再造林&治山・林道工事コンクール
- ・和楽器ユニットが森をテーマに楽曲、売上で植林

■遠藤日雄のルポ&対論

米材高騰でも安定取引を維持するインターレックス

■突撃レポート

「TOKYO WOOD」の出口を担う小嶋工務店

■ベンチャーの星

映像・音・香りで森林を再現、デジタルフォレスト

■地方のトピックニュース

- ・京都・京北で国産漆復活と伝統工芸再生事業開始
- ・10年後も190万m³の素材生産量、宮崎県新計画
- ・群馬県が21年度から「森林・林業基本計画」策定
- ・京築ヒノキを活用して「制震装置付意匠壁」開発
- ・「エアざし」のコンテナ苗生産マニュアルを作成

3

9

13

16

18



東京都産の高品質木材「TOKYO WOOD」を使った新しいモデルハウスの建設が小金井市内で進んでいる。(関連記事p13参照)

突撃レポート **「TOKYO WOOD」の“出口”を担う小嶋工務店**

大手ハウスメーカーや有力ビルダーが群雄割拠する首都トキョーで、東京の木にこだわり、年間約70棟の戸建て住宅を建設している工務店がある。創業55年目を迎えた(株)小嶋工務店(小金井市、小嶋智明社長)だ。「ウソをつかない家づくり」を掲げる同社は、「TOKYO WOOD」の住宅供給を担う工務店としても存在感を高めている。(文中敬称略)

「ウソをつかない家づくり」掲げ、仕事のディテールまで重視

「いい家と謳うのであれば、その『いい』の根拠を示さなければならぬ」——小嶋工務店社長の小嶋智明(53歳)は明快に言う。この言葉のとおり、同社の家づくりは細部にまで目配りが行き届いている。



上棟建設中の「TOKYO WOOD」の家、価格は1棟2,500万円程度

給することができる。

同社が何よりも重視しているのは、家づくりの『再現性』。この観点から使用部材も厳しく選別している。標準採用しているのが「TOKYO WOOD」だ。

天然乾燥、含水率20%…厳しい基準を工務店の覚悟で支える

「TOKYO WOOD」とは、メイドイントキョーの家づくりを目的に独自の基準で選び抜かれた高品質木材のこと。多摩地域の林業家・製材所・プレカット工場・工務店・建築士らが連携してブランド化に取り組んでおり、推進母体として一般社団法人TOK

その一例が4年をかけて製作した施工方法に関するディテール集だ。躯体部分の建て方から、防水シートの貼り方、資材の結束方法に至るまで、具体的な作業の仕方と留意点が整理されており、(財)ペタリービングが第三者機関として認証している。このディテール集を現場監督や大工などが共有することで、施工時に厳しいチェックの目が入り、高品質の家を安定的に供給

トーキョーウッド 突撃レポート ■ 「TOKYO WOOD」の“出口”を担う小嶋工務店 ■



東京の林業地を訪ねるバスツアー

昨年、小嶋工務店とTOKYO WOOD普及協会に朗報が届いた。「グッドデザイン賞2020」と「ウッドデザイン賞2020」をダブルで受賞したのだ。

小金井市にある「TOKYO WOOD」のモデルハウスでは、体験宿泊もできるようになっていた。小嶋は、その意図を「家は高い買い物になる。だから時間をかけて検討してもらいたい」と話す。

グッド&ウッドデザイン賞を^{ダブル}受賞、産地と消費者をつなぐ

小嶋が行った「ある約束」とは、グレーディングマシンで弾かれた材もすべて小嶋工務店が購入すること。胴縁や間柱といった強度がそれほど求められない部材としてならば有効利用できる。地域材調達に関わるリスクを工務店としてすべて引き受ける覚悟をみせたことが「TOKYO WOOD」を動かす原動力になった。

数)はスギでE70以上、ヒノキはE90以上としている。

一般的な人工乾燥は行わず、グレーディングマシンで1本1本の含水率や強度を測定することに、当初は難色を示す関係者もいたという。だが、小嶋は、「粘り強く対話を重ねた上で、ある約束をした。それでみんなの足並みが揃った」と振り返る。



「TOKYO WOOD」の印字がされた構造材、これまで512棟建てられ、約4,700m²が利用された(2020年10月時点)

YO WOOD普及協会(小金井市、理事長=沖倉喜彦・(有)沖倉製材所社長)が2012年3月に発足、現在は26団体・29名が正会員となっている。小嶋は、同協会の専務理事だ。

「TOKYO WOOD」の品質基準は厳しい。天然乾燥だけで含水率を20%以下に落とし、四面背割れを入れて狂いを防ぐ、強度(曲げヤング係

突撃レポート **「TOKYO WOOD」の“出口”を担う小嶋工務店**

一般消費者を対象にした1日バスツアーも随時開催している。午前9時頃にJR武蔵小金井駅を出発し、檜原村の山林や貯木場を見学した後、製材所で木工体験をするという工程だ。

また、ホームページでの情報発信に加え、情報誌「もりのしらせ森ノ報セ」を定期的に発行するなど、草の根レベルでつながりを広げる取り組みが続いている。こうした地道な努力の積み重ねがダブル受賞として評価された。

独特の手法で人材育成、「コロナ不況の影響もほとんどない」

小嶋工務店は、外断熱・二重通気工法を特徴とする「ソーラーサーキットの家」の加盟店でもあり、自然な空気の流れと「TOKYO WOOD」を活かして、通年で温度差が少ない快適な住環境の実現を目指している。

構造材の接合で強度が2・8倍になる1本100円のビスを独自につくるなど、技術開発にも余念がない。



小嶋智明・小嶋工務店社長

現在の社員数は、営業、設計などを合わせて42名。新入社員は、米国の心理学者が提唱するソーシャルスタイルというコミュニケーションスキルを日々の仕事を通じてマスターするなど、独特の人材育成法を取り入れている。

展示場は、小金井市、立川市、三鷹市に4棟あり、この4月に本ビル前にオープンする総合住宅展示場にも出展する予定だ。

本ビルの2階はショールームになっており、ドアから壁、床、手すりにいたるまで、住宅に必要なパーツがすべて揃っている。その一角には授乳室もあり、幼い子供と一緒に落ち着いて打ち合わせができる。

「ここ3年ぐらいで経営基盤が強くなった。コロナ不況の影響もほとんどない」と話す小嶋は、後継者の育成についても、「人材の層が厚くなってきた。大丈夫だろう」と笑顔をみせた。